平成29年度版

ＳＳ探究Ａ・Ｂ
SG探究

ディベート演習

島根県立出雲高等学校

２年	組	番	氏名

目　次

オリエンテーション

①２年生『ＳＳ探究Ａ・Ｂ』『ＳＧ探究』の進め方について　・・・　１

②自己紹介シート　・・・　５

ディベート演習

③『ディベート』の進め方　・・・　７

④グループの役割とテーマ（論題）に対する自論　・・・　１３

⑤意見持ち寄りシート　・・・　１５

⑥調べ学習役割分担表（ＳＡＭＰＬＥ）　・・・　１７

⑦「データカード」の記入と調べ学習のルール　・・・　１８

⑧「データカード」に記入する情報の収集・読み取り・整理　・・・　１９

⑨ディベート用データカード　・・・　２１

⑩立論マップ（参考例）　・・・　２７

⑪立論マップ　・・・　２９

⑫立論原稿（肯定側）　・・・　３１

⑬立論原稿（否定側）　・・・　３３

⑭戦略シート（ＳＡＭＰＬＥ）　・・・　３５

⑮反駁原稿　・・・　３７

⑯クラス内ディベート大会について　・・・　３９

⑰司会者用原稿　・・・　４１

⑱試合用フローシート　・・・　４３

⑲審査用フローシート（ＳＡＭＰＬＥ）　・・・　４５

⑳「ディベート」グループの自己評価　・・・　４７

㉑「ディベート」個人の自己評価　・・・　４９

㉒１学期の学習（ディベート演習）の振り返り　・・・　５１

2年生『SS探究A･B』「SG探究」の進め方について

２年生では課題研究を進めていくことになります。課題研究では、１年生の「ＳＳ基礎」で学んだことを活かし、それを発展させていくことが重要です。ここでは、「ＳＳ基礎」で学んだことを振り返り、「ＳＳ探究Ａ・Ｂ」「ＳＧ探究」での学習内容、育成される能力をみていきます。

Ⅰ　「ＳＳ基礎」で学んだこと

（１）「ＳＳ基礎」の目標

① 科学的リテラシーを身につける。
- ・世の中のしくみや科学的な事柄への関心を高め、受け身ではなく主体的・積極的に学習する。
- ・たくさんの文献・資料をもとにしながら、実験や調査等を通して客観的な事実をつかむように努める。

② 論理的に思考し、表現できる基礎的な能力を身につける。
- ・自分の意見をできるだけ論理的にまとめ、相手に正しく伝えるようにする。

③ 地域や社会に貢献し、国際社会でも活躍できる、リーダーとなり得る資質を身につける。
- ・他の人と関わり合いながら、ともに学習活動を進める。

（２）大まかな学習内容

内容		具体的な学習内容	主に関連する目標
基礎力養成演習	Logical Thinking 演習	○文章を論理的に読解し、自己の考えを論理的に文章で表現する	②
	情報整序演習	○集めた情報（意見）を整理し、ＫＪ法を用いてまとめる。	②③
	情報検索演習	○目的に応じた情報を正確かつ効率的に収集する方法を身につける。	①
調査・探究活動		○探究テーマを設定する。 ○探究テーマに関する背景、特徴や課題を調査する。 ○探究テーマに関する課題の解決策等を考察する。 ○調査・探究活動の成果をまとめ、他者に分かりやすく発表する。	①②③

２　「ＳＳ探究Ａ・Ｂ」「ＳＧ探究」を有意義なものとするために（心がまえ）

課題研究を本格的に始める前に、みなさんはディベート演習を行います。ディベート演習では、課題研究を行うにあたって必要とされる批判的対話力（論拠を分かりやすく主張する力）を養っていきます。そして、課題研究でその力をさらに醸成させていきます。では、課題研究やディベート演習で育成される能力とはどのような力なのでしょうか。

（１）「ＳＳ探究Ａ・Ｂ」「ＳＧ探究」の目標

① 基礎的･基本的な知識を深化させる。
・客観的な文献や資料をもとにしながら、探究しようとする課題に関する基礎的・基本的な知識の深化を図る。

② 自ら課題を設定し、解決するために必要な検証方法を計画する能力を身につける。
・課題を設定した上で、客観的事実に基づいて現状の課題を解決する。

③ 論理的に思考し、まとめる能力を身につける。
・得られたデータや情報をもとにグループの協働的な学習を通じて、論理的に思考を深め、自らあるいはグループの意見をまとめる。

④ 成果を学校内外に積極的に発信できる実践力を身につける(解決策や新たな知見の具体的提案)。
・グループでまとめた内容を、他の人に分かりやすく的確に発表する。

（２）育成される能力

❶学習に向かう意欲・態度（主体的・積極的に取り組む力）
❷情報活用能力（情報を正しく収集し、整理・分析して活用する力）
❸課題発見能力（客観的事実に基づいて現状の課題を発見する力）
❹論理的思考力（論証の筋道を構造的に組み立てる力）
❺コミュニケーション能力（他者と協働しながら、自分の思考を伝達する力）
❻問題解決能力（客観的事実に基づいて現状の課題を解決する力）
❼プレゼンテーション能力（自分の意見を分かりやすく的確に発表する力）

＊上記の観点を育成するために、次のことを念頭に学習に取り組んでください。

◎世の中のしくみや科学的な事柄への関心を高め､受け身ではなく主体的･積極的に学習する。
◎他の人と関わり合いながら、協働して学習活動を進める。
◎自らの意見をできるだけ論理的にまとめ、相手に正しく伝えるようにする。
◎たくさんの文献・資料をもとにしながら、実験やフィールドワーク等を通してできるだけ客観的な事実をつかむように努める。

3　各学年の年間スケジュール（H29 年度）

◎１年生

時期	主題	内容	主に関連する目標（ｐ１に準ずる）
4 月～8 月	基礎力養成演習	○Logical Thinking 演習	②
		○情報検索演習	②③
		○情報整序演習	①
9 月～1 月	調査・探究活動	○調査・探究	①②③
		○資料作成	①②③
		○プレゼンテーション演習	①②③
		○クラス内で研究発表（1 月）	①②③
2 月	課題研究成果発表会	○全作品ポスター発表	②③

◎２年生

☆ディベート演習（４月から９月まで）

時期	内容	具体的な学習内容	主に育成される能力
4 月～6 月	クラス内ディベート	○意見の集約（ＫＪ法※１を用いた整理）	❶❷❹❺
		○図書館、パソコン教室で調べ学習	❶❷❸❹❺
		○立論・反駁原稿等の作成	❶❹❺❻
		○クラス内ディベート大会	❶❹❺❻❼
9 月	色別対抗ディベート大会（久徴祭）	○代表４チームによる対抗戦を行い、最優秀チームを決定	❶❹❺❻❼

※１　川喜田二郎氏がデータをまとめるために考案した手法

☆課題研究（６月から３月まで）

時期	内容	具体的な学習内容	主に育成される能力
6 月	課題研究のテーマ設定	○自らの興味関心に従い、課題研究のテーマを設定 ○ゼミに分かれ、担当教員からの個別指導	❶❷❸❹❺
9 月～11 月	研究活動 中間発表会	○図書館、パソコン教室で資料分析 ※必要に応じて実験、フィールド調査など	❶❷❹❺❻❸

12 月～1 月	研究レポート・発表用資料の作成	○研究レポート、研究要旨の作成 ○発表用資料（パワーポイント）の作成、プレゼンテーション演習	❶❷❹❺❼
1～2 月	課題研究成果発表会	○ゼミごとの成果発表会 ○優秀作品について全体発表、全作品ポスター発表	❶❺❼

◎３年生

時期	内容	具体的な学習内容	主に育成される能力
4 月～7 月	課題研究	○課題研究の振り返り	❶❺
		○研究内容の再構成	❶❷❹❺❻❸
		○発表に向けた準備	❶❹❺❼
7 月	研究成果の還元	○キッズのためのスーパーサイエンス（理数科、普通科理系） ○地域創生に向けた高校生からの提案（普通科文系） ○島根大学におけるグローバルセッション（普通科文系）	❶❺❼

自己紹介シート①

私の名前は　　　　　　　　　　です。

今、私が気になっている社会の問題は

　　　　　　　　　　です。

その理由は・・・

（記入せず、グループ員に口頭で説明すること）

自己紹介シート②

組	番	氏名	検印

氏名	気になっていること	理由	自分の意見
さん			
さん			
さん			
さん			
さん			

『ディベート』の進め方

1　ディベートとは

ある特定のテーマ（論題）の（①　　　　　）について、二つのグループが（②　　　　　）と（③　　　　　）の立場に分かれ、客観的資料やデータなどの情報収集と分析を通して、（④　　　　　　）を説得する形で議論を行うこと。

⇩

このような議論によって、論理的な思考力・表現力、情報収集・活用能力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力などを育成するための訓練としてのゲーム

2　ディベートを行う上での視点

ある特定のテーマ（論題）について、プランを実行することで・・・

・その結果、何が起こるのか　＝　（⑤　　　　　　）

・起こったことがどのくらい重要なことか（又は深刻なことか）　＝　（⑥　　　　　）

☆ディベートで競い合うのは、「意見の強さ」

意見の強さ　＝　効果の起こる（⑦　　　　　　　）　×　価値の（⑧　　　　　　　　）

3　基本的なルール

①一つの論題について話し合う。

議論を拡散させてはいけません。「～は…すべきだ」という限定された論題について、「すべきか」「すべきではないか」の判断の妥当性のみに絞って議論することが必要です。限られた時間でかみ合った議論をすることが求められます。

②肯定側と否定側は機械的に分けられる。

各グループは肯定側か否定側どちらかに分かれます。グループの中で意見を二つに割ること、中立の立場をとることは認めらません。また、そもそもの自分の考え方と議論の立場は、必ずしも一致しません。「人と議論を分ける」ということが大事なのです。

③試合のルールに従う。

試合の中で、発言の順番や時間は「試合のルール」として決められています。また、「ニュー・アーギュメント（新しい議論）」や「レイト・レスポンス（遅すぎる反論）」（後述）など、ゲームを行う上での反則行為が定められています。

④客観的根拠に基づいた意見を述べる。

個人的な感想を述べても評価の対象にはなりません。「私の意見は～だ。なぜなら…だからだ。」といった、主張と根拠を１セットにした「証明された議論」により、その主張のどちらに説得力があるかを競い合うゲームです。

⑤審判によって判定が下される。

ゲームの勝敗は、第三者である審判が下します。したがって、二つのグループは相手を説得するというよりは、相手の主張の矛盾点や自分たちの主張の妥当性を説明しながら、審判を説得していく形でゲームが進められます。

4　出雲高校ディベートの進め方（フォーマット）

肯定側立論	２分３０秒	→	作戦タイム１分
否定側質疑	１分３０秒		
否定側立論	２分３０秒	→	作戦タイム１分
肯定側質疑	１分３０秒		
否定側第一反駁	１分３０秒	→	作戦タイム１分
肯定側第一反駁	１分３０秒	→	作戦タイム１分
否定側第二反駁	１分３０秒		
肯定側第二反駁	１分３０秒	→	審査時間２分

合計２０分００秒

判定（参観者が審判となり、挙手により勝敗を決定する。）

5　各スピーチの内容

（１）立論

論題に対して、肯定側は（⑨　　　　　　）を、否定側は（⑩　　　　　　）を述べます。

（例）『みどり小学校は、昼食を弁当にするべきである。』

・メリット（肯定側）：昼食時間が楽しくなる。親子のつながりが強くなる。

・デメリット（否定側）：栄養のバランスがくずれる。親の負担が増す。

立論は、以下のように組み立てます。

①言葉の定義：かみ合った議論を行うために、あいまいな言葉をきちんと定義する。
（大きな問題がない限り、基本的には否定側は肯定側の定義に従う。）

②プランの提示：いつ、どのように論題を実行するのか、論題の具体策を述べる。

③メリット・デメリットの説明：メリット・デメリットの発生過程（現状の分析、プランを導入した場合の効果）とその重要性（メリット）又は深刻性（デメリット）を２～３点述べる。

（２）質疑

相手の立論に対して、聞き取れなかったところや疑問に感じたところを確かめたり、反駁で使えそうなところ（相手の弱点）を見つけたりするため、相手に質問をします。ディベートの中で唯一、相手と直接話すことができる時間です。

相手から引き出した質疑の回答は、相手の立論の一部として扱われます。

（３）第一反駁

相手の立論や反駁に対して、根拠をつけて（⑪　　　　　）するのが反駁の役割です。

・否定側第一反駁：肯定側立論に対して反駁します。

・肯定側第一反駁：否定側立論と否定側第一反駁に対して反駁します。

この反駁において、立論で述べなかった新しいメリットやデメリットを主張することは**「新しい議論（ニュー・アーギュメント）」**となり、反則となります。

反駁は以下のように行います。相手の主張するメリット（又はデメリット）の発生過程、重要性（又は深刻性）一つ一つに対して反論するのが望ましいです。

①相手の主張の根拠を否定：相手の主張が認められないことを理由とともに述べる。

②証拠資料の提示：客観的資料を提示することでその根拠とする。

（４）第二反駁

直前のスピーチに対する（⑫　　　　　　　）をすることや、これまでの議論を振り返って（⑬　　　　　　）し、メリット・デメリットの大きさを比較して、審判に自分たちの勝ちをアピールして締めくくります。

第二反駁で反論できるのは、直前の相手のスピーチで新しく出た議論に対してだけであり、以下については**「遅すぎる反論（レイト・レスポンス）」**となり、反則となります。これは、最後のスピーチである第二反駁から反論されると、相手に再反論する機会がほとんどなく不公平という理由から設けられています。

ア．互いの立論に対して、第一反駁で反論しなかったことを第二反駁で反論した場合

イ．否定側第一反駁で出された反論に対して、肯定側第一反駁で再反論しなかったことを肯定側第二反駁で再反論した場合

6　試合において減点されること（反則行為）

・相手に対する非礼な言動

・相手の論理を故意に曲解した議論の進行

・時間をオーバーした後のスピーチの続行

・反駁における「ニュー・アーギュメント（新しい議論）」、第二反駁における「レイト・レスポンス（遅すぎる反論）」

7　ディベートを上手に進めるためのコツ

①審判に分かりやすい話し方

ディベートでは、審判に資料を配付することや、図や絵を示して説明することはできません。すべては「スピーチ」にかかっています。審判に伝わる声量やスピードで話すことを心がけましょう。

②言いたいことは先に言う

言いたいことを最後にとっておいて、第二反駁で一発逆転をねらう、というような作戦はディベートでは「ニュー・アーギュメント（新しい議論）」「レイト・レスポンス（遅すぎる反論）」などの反則となる場合があります。言いたいことは必ず先に言わなければなりません。

③話に番号をつける（ナンバリング）

複数ある話を、聞き手に分かりやすくスピーチするためには、「～については２点あります。まず１点目は…、２点目は…」というように番号（ナンバー）をつけて話すと聞き手に分かりやすくなります。

④話に表題をつける（ラベリング）

立論を一本調子でだらだらと話すのではなく、いくつかある話には、それぞれ１０文字程度の表題（ラベル、見出し）をつけて話すと聞き手に分かりやすくなります。

⑤主張には根拠をつける

主張を述べた後には、必ずその根拠を述べます。文献や資料から引用する場合は、引用の始まりと終わりを明示します。

（例）「～からの引用を開始します。…（引用）…。引用を終わります。」

⑥反駁の効果的な仕方（反駁の４拍子）

反駁には「引用」「否定」「根拠」「結論」の反駁の４拍子を使うと、相手のどの部分について反論しているか明確になり、分かりやすくなります。

（例）「肯定（否定）側は、立論の～で、…と言いました。」（引用）
「しかし、それは認められません。（それは重要ではありません。）」（否定）
「なぜなら、～だからです。」（根拠）
「ですから、肯定（否定）側の主張は間違っています。（重要ではありません。）」（結論）

⑦反駁におけるターン・アラウンド（反転）

相手の主張を利用して、むしろ自分たちのメリット・デメリットとすることを**「ターン・アラウンド（反転）」**と言います。

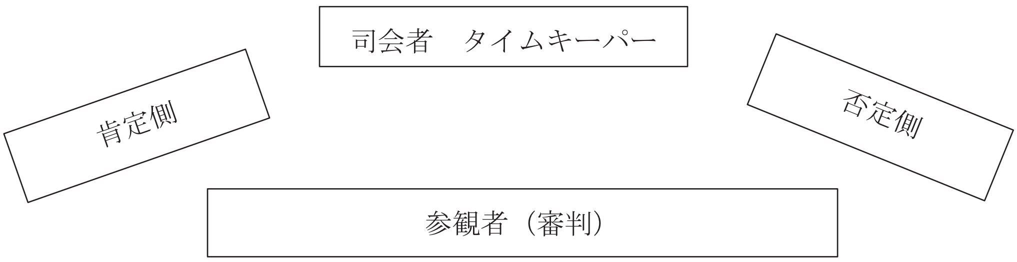
（例）主張「救急車を有料化すると、救急車の到着時間が早くなる」
根拠「タクシー代わりに安易に利用する人がいるから」
↑（反駁）
主張「救急車を有料化すると、救急車の到着時間が遅くなる」
根拠「お金を払えばよいと安易に利用する人が出てくるから」

⑧試合中のメモの取り方

試合中には、双方の議論の内容を「フローシート」にメモします。限られた時間でなるべく正確にメモをするためには次のような略語を使うと効果的です。また、データなどの数値は優先して書き取るようにしましょう。

（例）メリット＝M、デメリット＝D、プラン＝P
上がる・増える＝↑、下がる・減る＝↓、禁止・無くなる＝×
携帯電話＝ケ・ケータイ、パソコン＝PC、安楽死＝安　　　など

8　ディベート会場図



9　過去の出雲高校ディベート論題例

・平成２５年度

「日本は、遺伝子組み換え食品の販売・流通を中止すべきである。」

「日本は、国内の原子力発電所の稼働を、今後１０年以内にすべて止めるべきである。」

・平成２６年度

「島根県は、県内すべての学校に、太陽電池パネルの設置を義務づけるべきである。」

「日本は、外国人労働者の受け入れを拡大すべきである。」

・平成２７年度

「日本は裁判員制度を廃止すべきである。」

・平成２８年度

「日本は、すべての車を自動運転化すべきである。」

１０　ディベート基礎用語

用語	意味
論題	ディベートで議論するテーマ。「〜は…である。」という判断の形で示したもの。
肯定側	論題を実行する立場。プランを示し、プランからどのようなメリットが起こるのかを説明する。
否定側	論題を否定する（つまり、現状維持を支持する）立場。肯定側のプランによってどのようなデメリットが起こるのかを説明する。
立論	肯定側、否定側の主張を述べる場。言いたいことは全てここで述べる。
定義	議論する上で食い違っては困る言葉の意味を肯定側が説明すること。大きな問題がない限り、基本的には否定側は肯定側の定義に従う。
プラン	論題を実行するための具体的な内容・計画。
ラベル	メリット・デメリットの見出し（一言で分かる表題)。概ね１０字以内でまとめる。
発生過程	メリット・デメリットがなぜプランから起きるのかを説明する部分。
重要性	肯定側が、メリットがなぜ大切なのかという価値について説明する部分。
深刻性	否定側が、デメリットがなぜ問題なのかという価値について説明する部分。
質疑	相手の立論で聞き逃したところ、相手の弱いところを確認するための質問。ディベートの中で唯一相手と直接話すことができる部分。
反駁	相手の立論や反駁に対する反論。
審判	双方の「意見の強さ」（効果の起こる可能性×価値の重要性（深刻性)）を比べて勝敗を判定する役。

（参考文献）

読売新聞社・全国教室ディベート連盟『ディベート甲子園スタートブック』

菊池省三監修『ディベート　話し合う力をきたえる』（フレーベル館、2004 年）

検印

２年（　　　）組（　　　）班　氏名（　　　　　　　　　　　　　　）

【ディベート演習①】

論題『　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　』

（　　　）班メンバー氏名　※リーダーに◎、サブリーダーには○、書記には※を付すこと。		

テーマ（論題）について、現時点の自分の考えを書いてみよう。(200 字以内)

意見持ち寄りシート（ディベート演習②）

（　　　）班　氏名（　　　　　　　　　　　　　　　）

1　論題

「　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　」

2　メリット・デメリットを洗い出す上でのキーワード

〈キーワード例〉

原因・理由

比較・相関　　時間／空間／場所　…

歴史・経緯

公平性・負担感

リスク

時間・スピード　　早／遅…

コスト・費用

実例・実態

関心・意識・民意

実現可能性

今後の予測・展望

継続性

3　メリット・デメリットの洗い出し

※どんな細かいことでもよいので、思いついたことをできる限り書き出すこと。

※メリット・デメリットそれぞれ３つ以上書き出すこと。

※各自で書き出したメリット・デメリットを、**ＫＪ法**を使用してグループで意見集約する。

メリット	デメリット

調べ学習　役割分担表

SAMPLE

□班　メンバー［　　　　　　　　　　］

（リーダーには◎、サブリーダーには○、書記には※を付すこと）

1　論題

「　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　」

2　調べる内容と役割分担

※「調べる項目」については、論題の定義を決定する上で必要な事項を、「具体的に何を調べるのか」については、何を（用語の意味、数値、学識者の意見など）、どのようにして（文献の引用、関係者のインタビュー、アンケートなど）調べるのかを記入すること。

調べる項目	具体的に何を調べるのか		担当者
	何を	方法	
（記入例） 遺伝子組み換え食品の安全性	･遺伝子組み換え食品の生産過程から考えられる、人体への影響（健康被害など）の可能性について調べる。	・専門書から引用することにより、様々な立場の学識者の意見を複数調べる。	Aさん Bさん

「データカード」の記入と調べ学習のルール

〇「データカード」の記入について

①「データカード」は試合をする上での<u>**参考資料**</u>になる。

②「ラベル（見出し）」は、「データカード」に書かれている内容の表題になるので、見て分かるように書くこと。

③「メリット or デメリット」は、ラベルに対して書くこと。

〇「調べ学習」のルール

①基本的に、調べた内容は、<u>**「データカード」にすべて書き取る**</u>こと。

②ディベート演習期間中は、<u>**関連図書の貸し出しは行わない**</u>。

③図書館の資料の<u>**コピーは、図やグラフの資料に限り、必要最小限の範囲内で認める**</u>。

図書館での調べ学習の時間内に調べきれなかった内容は、<u>**昼休み・放課後等を使って各自調べることになります**</u>。それを念頭に、効率よく調べ学習ができるよう、あらかじめグループの役割分担を細かく決めておきましょう。

データカードに記入する情報の収集・読み取り・整理について

ディベートでは、「これをつかんでおけば肯定・否定が主張できる」「相手に反論できる」という、主張や反論の根拠やデータが必要です。この根拠やデータを収集し、データカードに記入していきます。データカードはまさにディベートの「切り札」となります。信頼度の高い切り札を多く揃えることが大切になってきます。

①情報の収集方法　☆『「学び」のガイド』ｐ１４～「情報を集めよう！」参照

様々な資料・メディアを活用して、情報収集します。

（１）図書　…辞書、辞典、一般書籍など。本の目次、索引、凡例、奥付などを活用。

（２）インターネット　…ポータルサイト、リンク集、資料の検索、「調べ方案内」などを活用。

（３）新聞　…朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、山陰中央新報
　　　　　　新聞データベース（朝日けんさくくん）

（４）雑誌

（５）パンフレット・リーフレット

②情報を読み取る方法　☆『「学び」のガイド』ｐ２２～「情報を読み取ろう！」参照

（１）自分に必要な個所をみつける。まずは、「キーワード」を探す。

（２）ざっくり読む。

（３）必要な所はじっくり読む。

（４）図表、グラフ等も注意して読む。

（５）全て鵜呑みにするのではなく、批判的に読む。

それぞれで「必要な情報が出ていそうか」「専門的すぎないか／簡単すぎないか」「著者の目的、視点、問題意識は何か」「いつの時点のものか」「著者はどのような人か」などを確認し、じっくり調べるべきかどうかを判断すします。

③情報をストックし、情報を整理する方法　☆『「学び」のガイド』ｐ２６～「情報カードを使おう！」参照

（１）丸写しはしない。キーワード、矢印や図などを使い、自分で理解し、再構築しながらメモする。

（２）１枚の情報カードに記入する情報はひとつ。１枚に調べたこと全てや、一冊の本・一つのサイトで得た情報を全て書くのではなく、異なる項目・情報は、用紙を変えて何枚も書く。項目が「ラベル（見出し）」となる。

④ちょっと注意が必要な著作権について　☆『「学び」のガイド』ｐ３５「著作権のはなし」参照

引用の表示や出典を明記せず利用することは「盗作」ともとられかねません。製作者の著作権を侵害することになります。インターネットサイトからのコピペなど、論外です。

（１）引用するときには必要な量のみを引用する。

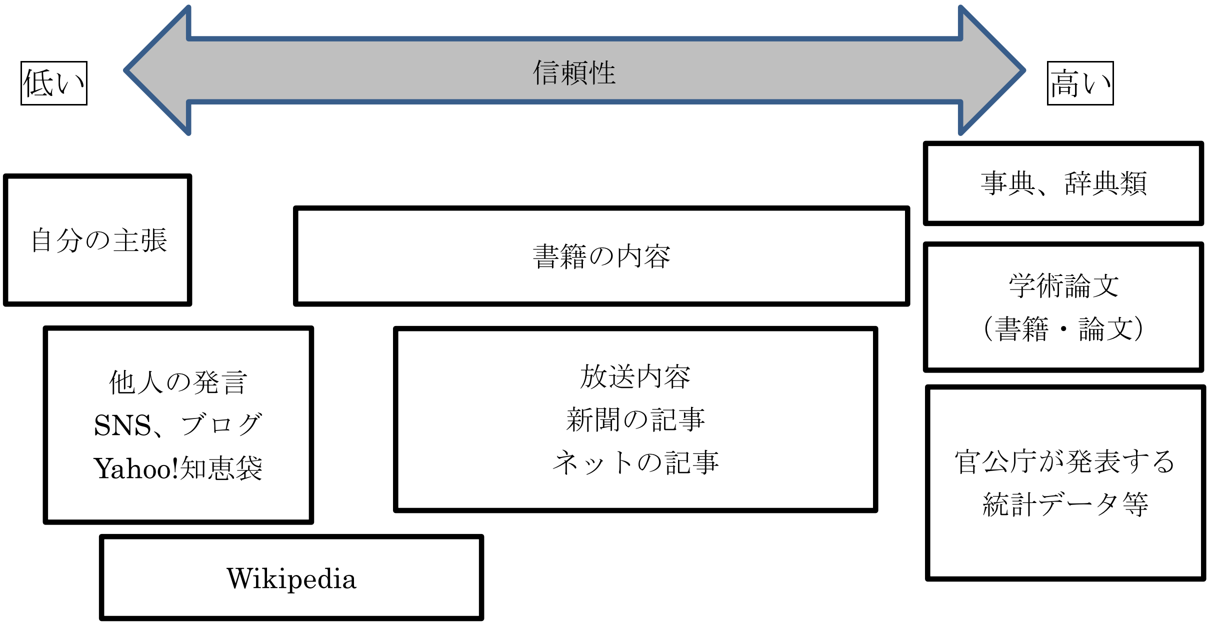
（２）自分たちの考察や意見と、引用部分ははっきり分ける。あくまで考察部分が主。
　　引用する際には、「　」で引用部分を示す。図表などもその都度出典を明記する。

（３）使った資料は明示する。それぞれ使った該当ページもメモしておく。

・本　　　『書名』、著者名、出版社、出版年
・雑誌　　『誌名』、「記事名」、出版社、発行年月日
・新聞　　『紙名』、発行年月日、ページ（面）
・パンフレット類　『誌名』、制作者、制作年月日
・インターネット　『HP 名』、URL、アクセス日時、できれば製作者名

ディベートでは特に、その根拠を「誰が」「どこが」言っているかが重要になってきます。著者名・製作者だけでなく、その人が「何者か」（○○大学教授、○○博士、○○研究員など）も控えておくことが重要です。

※引用ソース（情報源）の種類と信頼性



島根大学　御園・松田（２０１５）より引用。一部改訂

手がかりとしてはいいが、根拠としては弱い　→だから→　こちらで裏付けを取る！

※インターネットのサイトが信頼できるかどうか見極める方法

・誰がそのページを作っているか？
・誰に向けてそのページが書かれたものか？
・ページの目的が営利目的でないか？　広告がやたらと多くないか？
・その情報は元々どこから得られたものか（出典）がはっきり明記されているか？
・製作者の連絡先（E メールアドレスなど）が明記されているか？
・更新されているか？

などがあげられます。「yahoo！知恵袋」や個人のブログなど、客観的な判断がされておらず信頼性に問題があるものも多いので、公式のサイトを使うなど情報を必ず取捨選択し、信頼できるものを使いましょう。

また、情報を確かなものにするためには、特定の本だけ、特定のサイトだけではなく、複数の情報源で調べる必要があります。一つの情報だけでは独りよがりになりがちです。

※Wikipedia について

簡単に確認できるツールですが、誰でも書き込めるため、幅広い意見がよせられる半面、信頼性にはばらつきがあります。まずどんなことが話題になっているか、問題になっているかなど、ざっくりした情報収集や、まだあまり一般的ではない事柄（ごく最近のこと、地域が限定されること等）についての最初の情報収集にはよいかもしれませんが、情報の最終確認手段には使わないようにしましょう。

ディベート用データカード

ラベル（見出し）	（10字以内で端的にまとめること）
ﾒﾘｯﾄ or ﾃﾞﾒﾘｯﾄ	
要点	
資料の日付	
出典 （著者名、書籍名、新聞名等）	
記事等の見出し	
内容	

ディベート用データカード

ラベル（見出し）	（10字以内で端的にまとめること）
ﾒﾘｯﾄ or ﾃﾞﾒﾘｯﾄ	
要点	
資料の日付	
出典 （著者名、書籍名、新聞名等）	
記事等の見出し	
内容	

ディベート用データカード	
ラベル（見出し）	（10字以内で端的にまとめること）
ﾒﾘｯﾄ or ﾃﾞﾒﾘｯﾄ	
要点	
資料の日付	
出典 （著者名、書籍名、新聞名等）	
記事等の見出し	
内容	

ディベート用データカード	
ラベル（見出し）	（10字以内で端的にまとめること）
ﾒﾘｯﾄ or ﾃﾞﾒﾘｯﾄ	
要点	
資料の日付	
出典 （著者名、書籍名、新聞名等）	
記事等の見出し	
内容	

ディベート用データカード	
ラベル（見出し）	（10字以内で端的にまとめること）
ﾒﾘｯﾄ or ﾃﾞﾒﾘｯﾄ	
要点	
資料の日付	
出典（著者名、書籍名、新聞名等）	
記事等の見出し	
内容	

ディベート用データカード	
ラベル（見出し）	（10字以内で端的にまとめること）
ﾒﾘｯﾄ or ﾃﾞﾒﾘｯﾄ	
要点	
資料の日付	
出典（著者名、書籍名、新聞名等）	
記事等の見出し	
内容	

参考例

立論マップ　（肯定側）

【作成の手順】
①メリットのラベル（見出し）を書く。（１枚につき１つ。）
②そのメリットにつながる理由を挙げ、矢印でつないでいく。
（それを証明するデータカードがあればそれを書いておく。）
③ラベルをつけたメリットの重要性を書き込む。

論題

みどり小学校は、昼食を弁当にするべきである。

②発生過程

ひとりひとり体質が違う
↓
アレルギーを持っている子どもが多くいる
（データカード）
↓
弁当は、自分の体質に合った食べ物を食べることができる
↓

自分に合った量を食べられる
↓
給食は自分に合った量ではなく、食べ残しが多くある
（データカード）
↓
弁当は、自分に合った量を食べられ、食べ残しが減る
↓

①メリットのラベル（見出し）

昼食時間が楽しくなる

③このメリットの重要性

小学生にとって、昼食時間は休み時間と同じくらい大好きな時間であり、この時間を楽しく過ごすことは重要である。

参考文献：菊池省三監修『ディベート　話し合う力をきたえる』

参考例

立論マップ　（否定側）

【作成の手順】
①デメリットのラベル（見出し）を書く。（１枚につき１つ。）
②そのデメリットにつながる理由を挙げ、矢印でつないでいく。
（それを証明するデータカードがあればそれを書いておく。）
③ラベルをつけたデメリットの深刻性を書き込む。

論題

みどり小学校は、昼食を弁当にするべきである。

②発生過程

給食は栄養のバランスがよく考えられている
（データカード）

↓

好きなものばかり食べると、栄養のバランスが崩れる
（データカード）

↓

①デメリットのラベル（見出し）

栄養のバランスが崩れる

③このデメリットの深刻性

弁当を作る保護者は栄養の専門家ではないので、栄養のバランスが崩れるのは当然。子どもの成長や健康をゆがめてしまうので、深刻である。

参考文献：菊池省三監修『ディベート　話し合う力をきたえる』

立論マップ　（肯定側）

【作成の手順】
①メリットのラベル（見出し）を書く。（１枚につき１つ。）
②そのメリットにつながる理由を挙げ、矢印でつないでいく。
（それを証明するデータカードがあればそれを書いておく。）
③ラベルをつけたメリットの重要性を書き込む。

論題

②発生過程

①メリットのラベル（見出し）

③このメリットの重要性

立論マップ　（否定側）

【作成の手順】
①デメリットのラベル（見出し）を書く。（１枚につき１つ。）
②そのデメリットにつながる理由を挙げ、矢印でつないでいく。
　（それを証明するデータカードがあればそれを書いておく。）
③ラベルをつけたデメリットの深刻性を書き込む。

論題

②発生過程

①デメリットのラベル（見出し）

③このデメリットの深刻性

立論原稿 （肯定側）

今から、論題「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」で、肯定側の立論を行います。

まず、定義を述べます。（注※論題の言葉をはっきりさせる。）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿としします。

次に、プランを＿＿点述べます。（注※論題の具体策を述べる。いつ、どのように論題を実行するのか述べること。）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

以上のプランから起きるメリットを＿＿点述べます。

第１のメリットは、「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」です。

（注※メリットのタイトルを述べる。）

発生過程を述べます。（注※プランからなぜメリットが生じるのかを説明する。複数ある場合はナンバリングをすること。）

プランを実行すると、

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

このメリットの重要性は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

第２のメリットは、「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」です。
発生過程を述べます。プランを実行すると、

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

このメリットの重要性は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

以上で肯定側立論を終わります。ありがとうございました。

立論原稿　（否定側）

今から、否定側の立論を行います。
定義は肯定側に従います。（注※論題の言葉をはっきりさせる。）
否定側は現状を支持します。

肯定側のプランから起きるデメリットを_____点述べます。
第１のデメリットは、「____」です。
（注※デメリットのタイトルを述べる。）

発生過程を述べます。（注※プランからなぜデメリットが生じるのかを説明する。複数ある場合はナンバリングをすること。）
プランを実行すると、

このデメリットの深刻性は、______________________________________

____です。

第２のデメリットは、「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」です。
発生過程を述べます。プランを実行すると、

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

このデメリットの深刻性は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿

＿＿

＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

以上で否定側立論を終わります。ありがとうございました。

（　　）班　戦略シート（肯定側）

SAMPLE

論題（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

肯定側立論	予測される否定側の質疑	肯定側の回答予測
予測される否定側立論	肯定側の予測質疑	否定側の回答予測

SAMPLE

（　　）班　戦略シート（否定側）

論題（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

予測される肯定側立論	否定側の予測質疑	肯定側の回答予測

否定側立論	予測される肯定側の質疑	否定側の回答予測

反駁原稿　（　肯定側　・　否定側　）

※（　　）内はいずれかに○をつける。

（　肯定　・　否定　）側は（　メリット　・　デメリット　）の（　　）番目で、

____

____

________________________________と言いました。

しかし、それは認められません。
なぜかというと、

____

____

____

_____________________________________です。

（　その証拠資料を出します。　・　そのことを説明します。　）

____

____

____

____

____

____

____

____

●よって、相手側の言う（　メリット　・　デメリット　）は起こりません。

※２回目の反駁では、自分たちの意見の正しさを証明して終わることが望ましいため、
「●」の部分は、以下の内容とすること。

●よって、私たちの主張する

____

____

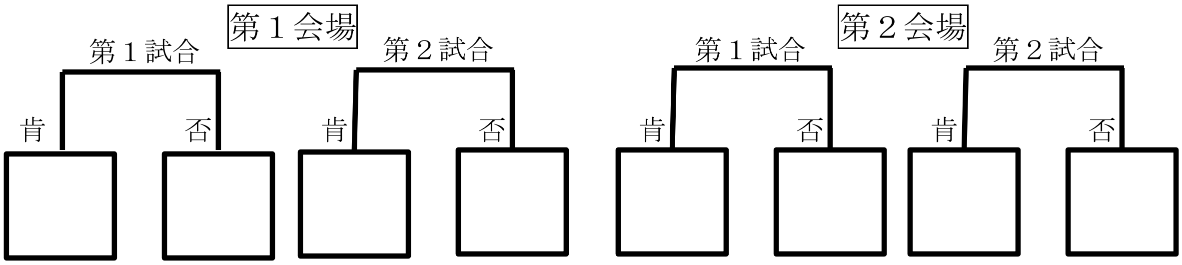
____

____________________という（　メリット　・　デメリット　）が起こるのです。

クラス内ディベート大会について

1　対戦相手

【ディベート演習】



2　グループ内での役割分担

【ディベート演習】

（　　　）班

役割	担当者	内容
リーダー		グループの代表として試合の進行を統括する。
サブリーダー		
立論		試合中のそれぞれの時間について、グループを代表して発言する。
質疑		
第一反駁		
第二反駁		
司会（またはﾀｲﾑｷｰﾊﾟｰ）		同じ会場の別の試合の進行をする。

3　試合時間（一試合あたり）

肯定側立論　　　２分３０秒　→　作戦タイム１分
否定側質疑　　　１分３０秒
否定側立論　　　２分３０秒　→　作戦タイム１分
肯定側質疑　　　１分３０秒
否定側第一反駁　１分３０秒　→　作戦タイム１分
肯定側第一反駁　１分３０秒　→　作戦タイム１分
否定側第二反駁　１分３０秒
肯定側第二反駁　１分３０秒　→　審査時間２分　　　合計２０分００秒
判定（参観者が審判となり、挙手により勝敗を決定する。）

4　試合の進め方

・司会者の進行に従い、試合を進める。
・試合中の発言者は、相手ではなく、参観者に向けて発言する。（審判は参観者が行う。）
・試合では以下のルールを守る。（審査において減点の対象となる。）
　①相手に対する非礼な言動を行わない。　②相手の論理を故意に曲解して議論を進めるようなことをしない。　③時間をオーバーして話し続けることをしない。

④反駁における「ニュー・アーギュメント」、第二反駁における「レイト・レスポンス」をしない。

・参観者は、同じ会場の別の試合について「審査用フローシート」にメモを取りながら審査（採点）し、肯定側・否定側について簡単なコメントを書く。

・試合の勝敗は、司会者の指示に従い、参観者の挙手により行う。

司会者用原稿

※タイムキーパーは、それぞれの時間を計り、時間がきたら発言者に知らせること。

○今から、ディベートの試合を行います。
　論題は「　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　」です。

○それでは肯定側立論です。２分３０秒でお願いします。…（肯定側立論）…
　作戦タイムを１分とります。参観者の皆さんはこの間に採点をお願いします。

○否定側から肯定側への質疑です。１分３０秒でお願いします。…（否定側質疑）…

○それでは否定側立論です。２分３０秒でお願いします。…（否定側立論）…
　作戦タイムを１分とります。参観者の皆さんはこの間に採点をお願いします。

○肯定側から否定側への質疑です。１分３０秒でお願いします。…（肯定側質疑）…

○それでは否定側第一反駁です。１分３０秒でお願いします。…（否定側第一反駁）…
　作戦タイムを１分とります。参観者の皆さんはこの間に採点をお願いします。

○肯定側第一反駁です。１分３０秒でお願いします。…（肯定側第一反駁）…
　作戦タイムを１分とります。参観者の皆さんはこの間に採点をお願いします。

○それでは否定側第二反駁です。１分３０秒でお願いします。…（否定側第二反駁）…

○肯定側第二反駁です。１分３０秒でお願いします。…（肯定側第二反駁）…

○参観者の皆さんは採点をお願いします。
　参観者の皆さんは各得点を合計し、さらに「フローシート」左下の減点があればそれを引いた上で、総合得点を出してください。また、肯定側、否定側についてそれぞれコメントを書いてください。２分でお願いします。

○判定を行います。肯定側の勝利と判断した人、挙手をお願いします。…（カウント）…
　否定側の勝利と判断した人、挙手をお願いします。…（カウント）…
　以上の結果、この試合の勝者は（　　　　　）側と決定します。
　以上で、ディベートの試合を終わります。参観者の皆さんは拍手をお願いします。

試合用フローシート（ディベート演習）

論題：『　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　』

①肯定側 立論	②否定側 質疑	⑥肯定側 第一反駁	⑧肯定側 第二反駁
③否定側 立論	④肯定側 質疑	⑤否定側 第一反駁	⑦否定側 第二反駁

審査用フローシート

SAMPLE

2年（　　）組

論題（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

肯定側（　　）グループ　否定側（　　）グループ

立論	質疑	第一反駁	第二反駁
① 肯定側 2分30秒	② 否定側 1分30秒	⑥ 肯定側 1分30秒	⑧ 肯定側 1分30秒
③ 否定側 2分30秒	④ 肯定側 1分30秒	⑤ 否定側 1分30秒	⑦ 否定側 1分30秒

得点	肯定側①	否定側③
【論理性】 ・論理的に筋道を立てて説明できているか。 ・客観的根拠が示されているか。		
【説得力・独自性】 ・説得力ある論理を展開しているか。 ・オリジナリティのある論理を展開できているか。		
【表現力】 ・表情豊かに、はっきりと表現できているか。 ・相手に聞き取りやすいスピードで話しているか。		
立論合計 （各項目3点満点で採点すること）		

得点	肯定側④	否定側②
【論理性】 ・相手の論理に沿った尋問ができているか。 ・相手の弱いところを指摘できているか。		
【説得力・独自性】 ・説得力ある論理を展開しているか。 ・オリジナリティのある論理を展開できているか。		
【表現力】 ・表情豊かに、はっきりと表現できているか。 ・相手に聞き取りやすいスピードで話しているか。		
反対尋問合計 （各項目3点満点で採点すること）		

得点	肯定側⑥	否定側⑤
【論理性】 ・相手の論理に沿った反駁ができているか。 ・客観的根拠が示されているか。		
【説得力・独自性】 ・説得力ある論理を展開しているか。 ・オリジナリティのある論理を展開できているか。		
【表現力】 ・表情豊かに、はっきりと表現できているか。 ・相手に聞き取りやすいスピードで話しているか。		
第一反駁合計 （各項目3点満点で採点すること）		

得点	肯定側⑧	否定側⑦
【論理性】 ・論理的に筋道を立てて説明できているか。 ・客観的根拠が示されているか。		
【説得力・独自性】 ・説得力ある論理を展開しているか。 ・自身の論理の正しさを主張できているか。		
【表現力】 ・表情豊かに、はっきりと表現できているか。 ・相手に聞き取りやすいスピードで話しているか。		
第二反駁合計 （各項目3点満点で採点すること）		

減点（5点の範囲内で減点すること）	肯定側	否定側
・相手に対する非礼な言動が見られた。 ・相手の論理を故意に曲解して議論を進めた。 ・時間をオーバーしても話し続けた。 ・「ニュー・アーギュメント」「レイト・レスポンス」が行われた。		

	肯定側	否定側
コメント		

	肯定側	否定側
総合得点		

検 印

「ディベート」 グループの自己評価（ディベート演習）

（　　）グループ　メンバー（　　　・　　　・　　　・　　　・　　　）

自己評価の観点	グループの自己評価（箇条書き）
【論理性】 ・論理的に筋道を立てて説明できたか。 ・相手の論理に沿った尋問・反駁ができたか。 ・客観的根拠を示すことができたか。	
【説得力・独自性】 ・説得力ある論理を展開できたか。 ・オリジナリティのある論理を展開できたか。 ・自身の論理の正しさを主張できたか。	
【表現力】 ・表情豊かに、はっきりと表現できたか。 ・相手に聞き取りやすいスピードで話せたか。	

検印

「ディベート」 個人の自己評価（ディベート演習）

２年（　　　）組（　　　）番　氏名（　　　　　　　　　　　　）

※「３段階評価」欄には、以下の「質問項目」について、次の３段階で評価し、番号で記入してください。（３．できた　２．まあまあできた　１．できなかった）

※「自由記述」欄には、「自己評価の観点」別に、自らの学習活動について自由に記述してください。

自己評価の観点	質問項目	3段階評価	自由記述
学習に向かう意欲・態度	ディベートで取扱う内容に興味・関心を持ち、受け身ではなく主体的に学習活動に取り組むことができた。		
	グループ学習に積極的に関わり、他の人と関わり合いながら学習活動に取り組むことができた。		
論理的思考力	立論原稿・反駁原稿作成において、客観的根拠や理論に基づいて、論理的に筋道を立てて文章を作成することができた。		
	試合において、相手の論理に沿った尋問、反駁を行い、自らの意見を論理的に構築することができた。		
コミュニケーション能力	オリエンテーションにおいて、相手に分かりやすく自らのプロフィールを紹介するとともに、他者の発言を積極的に聴くことができた。		
	KJ法において、グループの他の人と関わり合いながら、グループとしての意見をまとめることができた。		
	戦略シート作成において、グループの他の人の意見を聴き、それを尊重しながら自らの考えを述べることができた。		
問題解決能力	KJ法において、グループの他の人と協力しながら、論題のメリット・デメリットを考え、整理することができた。		
	立論原稿・反駁原稿作成において、客観的事実に基づいて論題のメリット・デメリットを整理し、意見を組み立てることができた。		
	戦略シート作成において、相手の論理の組立を予測し、それに対するグループの戦略方法を組み立てることができた。		
情報活用能力	調べ学習（データカード作成）において、知りたい情報についての適切な収集方法を選択し、正しい情報にアクセスすることができた。		
	調べ学習（データカード作成）において、集めた情報を整理・分析し、それを立論原稿・反駁原稿作成あるいは試合に活かすことができた。		
プレゼンテーション能力	試合において、準備された原稿やデータカードをもとに、相手に分かりやすく説明することができた。		
	試合において、相手に聞き取りやすいスピードで、表情豊かにはっきりと表現することができた。		

検　印

「SS探究A・B」「SG探究」 1学期の学習（ディベート演習）の振り返り

２年（　　）組（　　）番　氏名（　　　　　　　　）

【目指すべき能力等】

項目	内容
学習に向かう意欲・態度	ディベートで取扱う内容に興味・関心を持ち、受け身ではなく主体的に学習活動に取り組むことができた。
	グループ学習に積極的に関わり、他の人と関わり合いながら学習活動に取り組むことができた。
論理的思考力	立論原稿・反駁原稿作成において、客観的根拠や理論に基づいて、論理的に筋道を立てて文章を作成することができた。
	試合において、相手の論理に沿った尋問、反駁を行い、自らの意見を論理的に構築することができた。
コミュニケーション能力	オリエンテーションにおいて、相手に分かりやすく自らのプロフィールを紹介するとともに、他者の発言を積極的に聴くことができた。
	KJ法において、グループの他の人と関わり合いながら、グループとしての意見をまとめることができた。
	戦略シート作成において、グループの他の人の意見を聴き、それを尊重しながら自らの考えを述べることができた。
問題解決能力	KJ法において、グループの他の人と協力しながら、論題のメリット・デメリットを考え、整理することができた。
	立論原稿・反駁原稿作成において、客観的事実に基づいて論題のメリット・デメリットを整理し、意見を組み立てることができた。
	戦略シート作成において、相手の論理の組立を予測し、それに対するグループの戦略方法を組み立てることができた。
情報活用能力	調べ学習（データカード作成）において、知りたい情報についての適切な収集方法を選択し、正しい情報にアクセスすることができた。
	調べ学習（データカード作成）において、集めた情報を整理・分析し、それを立論原稿・反駁原稿作成あるいは試合に活かすことができた。
プレゼンテーション能力	試合において、準備された原稿やデータカードをもとに、相手に分かりやすく説明することができた。
	試合において、相手に聞き取りやすいスピードで、表情豊かにはっきりと表現することができた。

１　ディベート演習の学習をとおして、最も力を発揮すること（伸ばすこと）ができたと思う項目を3つ選び、その順に番号を付してください。

（　　）学習に向かう意欲・態度　（　　）論理的思考力　（　　）コミュニケーション能力
（　　）問題解決能力　（　　）情報活用能力　（　　）プレゼンテーション能力

２　ディベート演習の学習をとおして感じたこと、考えたことを、自由に記述してください。

ＳＳ探究Ａ・Ｂ　ＳＧ探究
ディベート演習

発　行　　平成２９年４月
発行者　　島根県立出雲高等学校
住　所　　〒693-0001
　　　　　島根県出雲市今市町 1800 番地
電　話　　(0853)21-0008
ＦＡＸ　　(0853)22-7855

髙